
SEED-Destiny ~ その歪みを断ち切る！なんちゃって

絶望

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SEEDED - Destination その歪みを断ち切る…なんちゃって

【Zコード】

Z0431Z

【作者名】

絶望

【あらすじ】

オリ主ではあるがクロスに初挑戦、そして女性主人公にも初挑戦、ロボ物もまた初挑戦……不安になつてきました。オリ主は強くないが機体が最強つて、チートの範囲に入るのかな?アンチになるか分からぬいが、とにかく初挑戦が多いので皆の意見を見ながら書こうかと。原作破壊は現時点でするつもりはありません。誤字脱字とか文法の違いもあるかもしれません、指摘してくれたらありがたいん…まあ後の事は後で、とりあえず純粹種である主人公がGNドライブの暴走で世界を超えて種死と(もし書けたなら)その後を(対話しな

がら) 武力介入するオリ話を楽しみましょうー。

いい忘れていいもう

た、種も種死も、シナリオ的に突っ込みたいが、ほとんどのキャラ
が好きですので、仮にアンチしても、悪い方向には絶対に行かない
と約束いたします

プロローグ（前書き）

とりあえず導入…

ストレージイザーの時間軸を勝手に早めたが…んまあ本編にですつも
りは未だないので大丈夫…だよね？

プロローグ

プロローグ

「うう……」

瞼をなんとか開いて、私はまだすつきりしない頭を何回振った。そしてズキズキする頭を引き摺りながら、状況を確認する。確認する……

「つてええええ………ね、アルティ………これは夢？」

「残念ながら現実だね、クリス………何なら電気ショックでも？」

私の前に小さな………手のひらサイズの人が現れ、こう言つた。言つた。

「遠慮しとくわ………その言い方は現実そのものね」

彼の名はA I L T (Artificial Intelligence
ce Resist Testament) 私の曾お爺様の代から
研究し続け、お父様が完成した人工知能、そしてこの小人はその立
体映像なわけ。

レジスト・テスマント………「聖なる契約に反する」
普通のA Iとの最もたる違いは、完全なる………自我。

私よりちょっと年上で、そ………お兄様みたいに、私の事を可愛がってくれた。だから私はコードネームを拒否し、普段はアルティと呼んでる………普段わね。

勿論名付け親は私で、彼もその名前を気に入ってるみたい。

……でも、その所為でお父様と……「うん、今は考えなくていいのー

「木星に居るはずなのに…アルティ、」

「ふむ…どのセンサーの結果から見ても、金星軌道だな…間違えな
く」

それを聞いて、私はほんの少しほつとして、

「太陽系圏内でよかつたわ…」

「いや…それは…」

そう、これくらいは一応予想範囲内だった。

さつきも言ったように、私の家は科学者の家系、そしてアルティの
ほかに、もう一つの研究を行つてゐる、そして意識不明の状態に陥
つたお父様の後を継ぎ、数日前ようやくプロトタイプがロールアウ
トした。

今日、私は開発者兼テストパイロットとして実稼動を行つて…

「やはり多重リンクの粒子放出量が多すぎるのはね「実は…」…過
小評価したつもりはなかつたけど「言い難いが…」…暴走しちゃう
なんて、「いやだから…」帰つたら制御装置の見直しか「あのな…」
…アルティ、ツインでトランザム起動よ…」

「だから人の話を聞かんか！」

「つ…」…「ごめんなさい、お兄様…」

一人で舞い上がつた所為で、お兄様がキレてしまつたようで…
…なによ、わ…悪い？万が一でもお兄様に嫌われたらわたくし…

「あ……いや、俺こそすまん、さすがにこの状況に気が転倒したみたいだ」

（謎の声：仮にだ！仮に、本当にマジキレしたとしても、この縮籠つて涙目且つ上目遣いでうるつるする可愛い子犬（妹）を目にしてなお、怒られる人は居るのだろうか？いやない！反語！）

「よかつた……って、え？」

安心と共に、疑問を抱いた。

アルティガ：あのアルティガ：転倒してゐる？

「これを見ろ」

そう言って、アルティは星間レーダーのスクリーンを出した……

ない……何處にもない！木星重力圏内に居るはずの母艦も、この間出発して天王星軌道上に居るはずの移民船団も…なんで居ないのよ！？

「そしてこれは光量子レーダーの結果だ」

もう一つのスクリーン、地球月軌道周辺のスキャンみたい…

たいなのが……」

そしたらアルティは少し考えて、

「俺の妄想ならいいが……どうやら世界を超えたらしいな……」

「そんなはずは……いや、自乗のトランザムで既に量子化して物理的の連續性を離散させられたのだから……完全じやないとは言え四乗なら更に量子運動を増幅させて……」

またいつもの癖で考え込む私の視野に、1・1サイズのアルティの顔が……

「あやあー」

思わず掌を胸に当てて距離をとる私をよそに

「理屈はどうでもいい……ん?」

「なに?……非自然運動体?光学映像から見ると……MSの胴体部かしら……」

「生命反応は一つ、遭難みたいね……どうする?」

ニヤニヤしてる……私の返事なんて分かり切つてる癖に……とりあえずオープンチャンネルで呼びかけ、そしたら女の声が

「JALICO・S・S・D技術開発センター所属のセーネ・マクグリフよ」

「あはは……」丁寧にどうも……救助に移るからこちらの事情はあんまり詮索しないでくれると嬉しいな……」

「……わけありみたいね……分かったわ。救助、感謝します、この座標に運んでもくれるとたすかります。」

送ってきた座標は、例の砂時計のひとつ…アブリリウス？

「了解した…アルティ、1番2番ツイン接続、トランザム起動！」

「了解、ツインドライブ、オールグリーン。トランザム、起動する。

」

こうして、西暦3014年、地球人類が異星生命体とのファーストコンタクトから丁度10世紀記念日であったのこの日、イオリア再来とまで期待される当代GN粒子研究者の第一人者であるクリス・フィール・L・イブラヒム（24才）が、敵性異星人に対抗及び対話するため自身が設計した新型MSの起動実験にて失踪、MIA処理とされた事をここに記録する。

そして、彼女の最後の研究テーマである「GNドライブ多重連結システム」は、粒子量により制御不可能と判断され、凍結された。

戦争と言ひモノ（前書き）

早くも少しシリアス突入…そんなつもりはなかつたのに…んまあでもシリアスはそんなに多くないので、早めに終える方もそれはそれで…

戦争と言つモノ

プラント、アプリリウス1最高評議会。

ユニウス7の落下により深刻な被害を受けた地球住民に対する援助活動に関する会議が行われ、結論に至り終わりを告げようとするギルバード・デュランダルの下に、一人の消息が伝わった。

「諸君、どうやら我々の会議はまだ続かねばならないようだ」

ざわざわ…

「何が起きたのでしょうか、議長」

「実は、先日壊滅したD・S・S・D機関の人員リストには、MIAと記録されている実験機とそのパイロットが、所属不明のMSについて回収され、ここに来たそうだ」

ざわざわ…

「しかし、報告によると確かエネルギー切れの上金星軌道付近に飛ばされたと、仮に救助され無事戻ったとしてもこの短時間でどうやつて…」

「うむ、これこそ私が会議を続く理由だ。そのMSのパイロットから実に興味深い伝言が来たよ…この国の大統領と話したい、と…」

ざわざわ…

「大統領…だと?」「そんな馬鹿な」「プラントが議会制だと知らなればずは…」

「静肅に… とりあえず、そのパイロットをここに連れて来たまえ、
話はそれからだ」

SIDE クリス

「クリスフィール・」・イブラヒムと言つたか、君の話を信じりと
? 議員A

「そのような戯れ事を」 議員B

「しかし、現に彼女の機体は我々の科学レベルを遥かに超えている」

C

…ざわざわ…

「諸君、静肅に！ イブラヒムくん、君の話を真実と仮定して、君は
これからどうするつもりかね？」

「ふん… この人、冷静ですね…

「まだ決めていないわ、情報が少な過ぎるですもの」

基本的な世界状況はセーネさんから聞いたけど、彼女はあくまで
技術者… 私も人を言えないんですけど、彼女の知識はあくまで表面上
のものであり、それだけではとても判断できないわ。

議長であるその人が何かを話そうとした時、一人の伝令兵が部屋に入り込んだ。

「…申し訳ない、たつた今月の地球軍艦隊の動きが確認された、君との話は…」

「…勝手な提案だけど…傍観させて貰つてもいいかしら?」

ざわざわ…

「ふむ…いいでしょ、隠すよつなことでもない」

「ありがとうございます、デュランダル議長…ですが、やはりどの世界の人間も戦争するのですね…悲しい事ではありますか」

「確かに…悲しいのです、そして軍の動きは一般市民をも動搖させるのでしよう…」

なぜだらつ…この人、争いたくない、戦争したくないという気持ちに偽りが感じないのに…どこかずれている気がしますわ。

そんな思惑を知るはずもなく、デュランダルは続く

「しかし、やむ得ません…我々の中では今でもあの、血のバレンタインが残っていますしね…」

絶句した議員たちを見ながら、私はそれも仕方がないと思つてしまつたのです。

農業「ロニーに核ミサイルを撃ち込むなんて、歴史上極悪だった、あのアロウズですらやらなかつたのですから…もっとも、工場衛星に殺戮用のオートマタを投入するのも大して変わりはないのかも知

れません。

そして… 地球軍大統領の宣戦布告… それはこの世界に来たばかりの私ですら、横暴かつ自分勝手としか言えません。

地球軍の展開した艦隊に対し、プラントの守備艦隊も防衛線を敷き、やがて両軍のMS軍が次々と戦艦から発し、臨戦態勢に入った。それと同時に、私は議長や議員たちに付いて司令室らしき部屋に移動した。

平和こそ一番の望みとは言え、デュランダル議長も議員たちも決して平和ボケではなく、冷静な口調で命令を飛ばしてゆく。

「防衛軍の司令官を呼べ、最終防衛ラインの配置は？」

「全市、港の封鎖完了しました」「警報はどうする？」「パニックに備え、MPに待機命令を」「我々に逃げる場所などないのだよ」「その通りだ、なんとしてもプラントを守るんだ！」

議長の言葉を区切るの様に、両軍が戦闘を始め、そして… 多くの命が散つて行く。私は科学者ではありますが、その原因は敵性異星生命体、戦闘… それも今行っているそれなど比べにもなれないほど残酷な場面を幾度か経験してきました。

ですが、それでもやはり… 人間同士の争いが… 一番辛いのですわね
… お兄様…

気弱くなってしまった私は思わずアルティに甘えたくなってしまったのですが、気を取り直してこの世界の二大勢力の力を分析し始めた。

推進力はやはりスラスターに頼り、機動性は精々データ上、改造されたフラッグか、超兵仕様のティレンと同等…いや、少しだけ上ですわね。GN粒子もないのにビーム兵器が使えるのは流石と言つべきでしょ。総合的な性能は、お世辞でもアヘッドや第三世代のガンダムに至つていませんね。ですが、それを覆すほどの量がありますわね。

記録がどれだけ正確かは知りませんが、両方とも当時、ガンダム鹹獲するための合同作戦に投入された戦力総量と同等以上の数が備わっている…月基地の艦隊や、プラント防衛艦隊が全軍の何割かは分かれませんが、少なくとも全部ではないのでしょうか。

更に細かくすれば、量は地球軍のほうが多いでしょうが、プラントの軍人は皆「一デイナー…イノベーター」や「イノベート」ほどでなくとも、超兵レベルはありますわね。

……

あら…伝令兵の顔色が悪いのですわね、戦局は五分と思いましたのですが…

「極軌道哨戒機より入電、敵別働隊にマーク5型、か、核兵器が確認されました」

「な…」「核だと…?」「ナチュラル共め」

「数は?」「不明との事ですが、かなりの数が確認されました」

核…兵器…ですって…一度二度ならず、また…なぜ同じ人間にこうも簡単に核なんて…ダメですわよクリス、今はとにかく情報が必要で、それにあれに積んでいた技術のそれを取つてでもこの世界につつて早すぎるわ、過ぎた技術は災厄しかもたらさないもの…だから

「な……」「こつ之間」……」「監視は何をやつてこるー?」

「任せて堪りますか!いや堪りませんわ!」

ついに声を出し、部屋中に響き渡つた私(その発生源)に、全員の視線が集まつた。

「デュランダル議長、勝手を承知の上で頼みます、私に防衛を手伝いさせて下せ!」

「いやしかし……本当に頼んでいいのかね?」

「議長!」「危険です!」「いや、この状況で内通はないでしょう」

「それを見せかけた逃走も……」「漏れて困る情報は知らせでない丈夫じゃない?」

やはり議会制にも弊害がありますわね……そう思いながら

「これは私の安全も掛かってるのですから……勿論「ちり」も条件がありますわ。一つは、核兵器の阻止以外は加担しません。もう一つ、終わつたら地球に行かせる事……心配しなくともあんなバカ共の手下は「めんだわ。」

「…………分かつた、では早速準備を……」

「必要ないわ……アルティ!」

「やはり「なつたか……」」

「………」「やうがないな、クリスは」

ドン！

「はあーはあーほ、報告！例のMSがいきなり姿を消えて、そしたらなぜか通信が一切通じなく……」

「…たすがですね、これが異世界の技術か」

「そういう事、文句とか後でまとめて聞きますから…掃除、行って参りますわ」

「あ…頼むよ、プラントを、守ってくれ」

議長の言葉が本心と確信しながら、私は「シクビットに入り、ハッチを閉じる。

「核兵器なんて…アルティ！」

「分かつた。モード変更、武装ブロックECLS休眠解除、GNドライブ3番4番接続、火器ロック解除、システムオールグリーン。発進準備…何時でも行けるよ、クリス」

「最終確認…

…よし。クリスフィール・」・イブラヒム、ダブルオーネクサス…ガンダム、発進しますわ！」

SIDE 第三者

ありえない光景…夢なのか、幻なのか…否、それは紛れもなく現実。

発射されたミサイルを止めることができなく、絶望の叫びを発する者にとって、それは神の慈悲にも等しい、天使の光臨だった。

発射したミサイルが反抗の砲火をくぐり抜くのを見て、歓喜に耽る者にとって、それは悪魔の嗤いにも見える、地獄の招待だった。

一筋の薄い縁の光だつた。それだけのはずだった。

小さな、また小さな光が最初の光から離れ、そしてその最初の光を除く24筋の光はミサイルの群れに飛び込んだ。

それから何が起きたのだろうか。当時その光の輪舞を見て、生き残った人たちに覚えてるのはただ一つの光景だった。それは、プラントの前で満開する桜色の花火であった。

SIDE イザーク

満開の桜にはしばらく呆然としたが、プランクトの無事を確認し放心した。

俺は、思わずその光を発する何かを見詰めた。

心のどこかでは分かっていた。

それは噂の謎のMSだと。

だが、その時の俺にとって、それは正しく天使そのものだった。

SIDE ク里斯

大人しく帰つてくだされば、こんな事しなくて済んだ…

ミサイル（希望）があつさり破られ、至福からの転落が原因かは知りませんが、ミサイルを運んできたMS隊は私に向けて攻撃を開始した。

「私は無意味な殺生を嫌いですわ、お引きなさい…

…次に会つ時があるとしたら、お話の場であつて欲しいですわね」

そして…

…

「そ…私はね、人も、獣も殺すのは嫌いですけど…対話を放棄し獣に成り果てた人を殺すための躊躇いは持つてませんわよ…運がよかつたら、味方に拾つて貰えるのをお祈りなさい」

24機のE-L-S GNファングを放出し、地球軍の核攻撃隊を躊躇し始めた。ビームで貫き、ダガーで串刺し、手足を？ぎ捨て、頭を破壊する…

不殺？冗談じやないわ。戦場に出れば死は平等よ、例えそれが地球

人だろうと、異星人だろうと、液体金属生命体だろうと、戦場では命ほど安いものはないわ…恨まれようが憎まれようが関係ない。私は対話を諦めるつもりが一切ないが…それでも命は散る、私が奪うのよ…だから、私は例え1%でも生き延びたという可能性を欲しいの…

偽善？自己満足？

言いたければ言えばいいじゃない！罵たいならすればいいじゃない！

私は人間よ、生き物よ、生きるために他の命を奪うのは必然、覚悟もありますわ…でも！それでも！私は生きるためだから、守るためだから、戦争だから…そんな理由で他の命を奪うことを「仕方がない」で片付けたくない！

信念？確固たる信念とかいうモノを持てば人を殺していくって言うの？

言い訳は…しないわ…私はただ、自分の心を守りたいだけよ。どれほど綺麗に包めても、どれほど可愛いリボンで飾つても、私は命を奪つてるのは…知つてゐる誰かの夢を守るため、知らない誰かから夢を実現する可能性を奪うの…

罪を背負う？そんな権力誰があるの？そんな資格誰が持つてゐるの？背負うつもりはない、でも、私は肯定するわ、罪も、罰も…もし誰かが大切な人を私に奪われて、仇を取りに來るのでしたら、受け止めるわ。全力で抗つて、勝つたら、私は私の夢のためにその命を貢う。そしてもしあなたが勝つたら、あなたの目的のために私の命を持つて行きなさい。

だからや…

「いいよクリス…泣きなさい…精一杯泣いて、そして外に出たら笑いなさい、幸せになりなさい。そしてまた泣きたくなつたらいつでも来て、俺が…俺たちが受け止めてあげる…クリスを受け入れてくれる人間が現れるまで、ずっと、いつまでも…」

……自力でプラントに戻つたネクサスのコックピットから私が
出たのは、それから6時間後の事だった

報告によると、核攻撃部隊の生き残りはは64の中の11らしい…
これを聞かされた私は

「そ…今日は53人殺したのね、私…」と呟いただけだった。

私の本当の思惑を読み取れたのは、アルティどどこか悲しそうな表情をして私を見つめた議長以外に居たのかしら…

戦争と恋のモノ（後書き）

正直こんな初期でこの告白はないと自分でも思つてゐる…
そしていつこの告白は読み手の好悪を分けるのよね……

白状すると、書きながら自分でも少し混乱してゐる、でも終わつて読
んでみたら、意外とこう言つた

「矛盾を抱きながら自分のあり形を探し続き、時
には人に甘えて大泣きするような、人間味のある」

キャラが好きかも知れません

設定（前書き）

とつあえず、一気に100まで書いて、反応を見てから決めたいと思
います

せっかくの休日を使い切つたけど後悔はしませんよー。しませんとも

とりあえずエンジニアダウンまでの予定を並べたいと思います

- 1、核攻撃を一回にする、原作中のあれを第一回とする（済み）
- 2、クリスはアスランと入れ違えでミネルバと合流、勿論第一回オーブ連合戦も参加…とは言えシンのS.E.E.D覚醒は原作通りにする予定

3、純粹種の勘が発動して、フリーダムと一度共闘（そのため敵を微変更）

- 4、純粹種であるが故に、色々な人の心に踏み込む予定
- 5、ミーアにアドバイス…フラグ回収できるかどうか未定（百合ではありません！現時点では）
- 6、ステラは死なせません！（本作初トランザムバーストする予定
- 7、ハイネさんは…ごめんなさい、生かすだけならともかく後の見せ場が全然…
- 8、レイが徐々に心を開く、作者の暴走次第にフラグ（マテ
- 9、ラクスが宇宙行く時援護に入る（ミーアフラグ2

とりあえずこれくらいかな、他にもこれを見たい、あるいはこれは書かないほうがいい、つてのがあるならどんどん言って下さい、書けるかどうかはさすがに保障できませんが、参考までいろんな意見が欲しい

それと、私はいまだにクリスのあれ（ビシッと小指）を決めてない、

といふかすゞく迷つてゐるので、アンケートします

1、トリオの一人とくつ付く（1×1）選んだ場合どいつか書いて
くだしゃい

2、トリオの一人のハーレムの一員になる（マテコラ

3、レイと：（これだと議長から寝取るの確定つて椅子は止めて！

4、アルティが人間（バイオ技術の産物）の体を手に入れ…

実を言うと4が初期案ですゞく書きたいけど、一番難しい

と言つが、やはり女主人公きついた、男ならハーレムでOKなのに・

・

フラグ立つの結構後ろだから締め切りは決まりません！

ではでは設定行きましょつ

クリスフィール・L・イブラヒム（登場時24才の

まず外見

髪：太ももの半分を超える白慢のロングウェーブ 金髪

顔：少し細めの逆三角型

目：ツリもせずタレもせず、普通 瞳はダークルビー（とある先祖の遺伝子強い…

唇：薄い小さい可愛い三拍子の淡いピンク（つておい最後のはなんだ

身長 157cm (ちなみにハイヒール大っ嫌い)

スリーサブホフ : 82 / 53 / 88 (ナイスバディーな安産つて包丁置いて話し合おつ、な?)

苗字から誰の子孫か分かるわよね。流石に。その人は誰と結ばれる事はない、なんて突っ込んではいけない約束

生まれた時点からA.I.L.Tに見守られ続けてきた、アルティの名付け親。父とは仲がよかつたがとある事件をきっかけに良く喧嘩するようになり、最終的にほぼ絶縁状態のまま、クリスの父が実験での事故で意識不明になつた。

純粹種としての覚醒は6歳前半

他人の前では気高いお嬢様、頼れるお姉さんと振舞うが、生まれてから、そして6歳からずつと一緒に居たアルティとE.L.Sたちの前では乙女である。特にアルティに対してかなりの甘えん坊な上、とあるスイッチが入ると従順なペットと変貌してしまう(マテ)

ちなみに、アルティは「兄」だが血縁どころか人間ですらないので、以降どう発展するかは検討中

勉強は中の上、どの科目も平均的で7割くらいの点数ではあるが、大学に入り、量子物理学及びGN粒子に関する理解力、分析力共にすば抜けており、21才でGN粒子の研究者として一目置かれる存在となつていた。

同年、地球は新たな異星生命体を発見との消息を光量子通信で知ら

された。

同年、敵対意思を持つた例の異性生命体は地球に侵攻、数世紀に渡り戦争と無縁なため兵器の研究が止まっており、仕方なくクリスは実験用のツインドライブ機体で幾たび出撃し、苦戦を強いられた。その上ツインドライブの粒子量でも当異星生命体との対話に足らず、新たなるGNドライブが課題付けられた。

翌年、戦備が一段落し、戦況は膠着状態に。クリスは思わずこう父が残した研究レポートを発見、着手し、同時に木に旅立つための準備を始める

翌年、「GNドライブ多重連結システム」の基礎理論が完成、クリス木星へ

翌年、新型GNドライブを製造する時間がなく、旧式を量産し実験機ネクサスを完成、そして…

続いてオリジナル機体行きまーす

ダブルオーネクサス

ダブルオーシリーズ正統後継機

高さ 18.6m

重さ 68.2t (全身ELS金屬なんで仕方ない…よね?)

装甲 ELS・GNバーディング

動力 初期型GNドライブ8基 (ですがツイン以上リンクすると暴走確率大)

それから旧式とは言え多重リンクの前提

で作つたので

特殊 構成ELSは全部クリスの幼馴染、故に実質上彼女以外動かせない

ELSの力で実弾兵器一切無効どころか吸収される……

交代制で理論上ツインドライブトランザム常時稼動可、Gを

耐えられるなら

メイン格闘

EL-535 接近ブレーク 2本 左腰一白桜上

右腰一黑樁

日本刀型鞋作りが変異性金属なので刃を消す事も可能

メイン射撃

中・遠距離
中華人民共和国
中華人民共和国

モード近・中距離

離連射

距離包裝

Sモード 遠・超遠

距離猶轉
ランチャー

距離砲擊

ELS-GN斬艦刀「グラム」（言わすとも武神装

項 変異性金属たんてりや

GNビームダガーバリ×4

ELS・GNファング×??

5
h

詳細・ミニ型GNDライブ搭載（実は新型を開発する時、火種が小さすぎて…）

変異性金属なため（またかよ）2つで1つに融合でき、
その場合ツインドライブ、勿論更なる融合も可能だが、同じくツイ
ン以上は暴走可能性大

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0431z/>

SEED-Destiny～その歪みを断ち切る！なんちゃって
2011年12月1日19時57分発行